東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 134　July. 1.　2013

発行　公益社団法人
日本山岳会東海支部
〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMC
電話：052-332-8363　FAX：052-322-7924
郵便口座 00800-5-13749「日本山岳会東海支部」
銀行口座 三菱東京UFJ銀行 覚王山支店
普通1222073「日本山岳会東海支部」
編集　星　一男
印刷　㈱ 浅井隆文社

クスムカングル南東壁下部

目　次

○平成25年度支部通常総会　佐野忠則　1
・24年度事業報告　3
・25年度事業計画　4
・25年度組織図　5
・25年度役員　6

○クスムカングル南東壁登攀　山田利行　7

○SON支援登山・ブラインド登山　前田隆久　10

○OSU山桜フィールド整備キックオフ　和田豊司　11

○東海学生山岳連盟 新入会員集う　高橋玲司　12

○東海支部俳壇　西山秀夫　12

○同好会紹介コーナー　佐野忠則　13

○支部友会コーナー　尾上　昇　14

○亀の会傘寿山行　加藤守彦　15

○マッキンリー登頂　中山秀樹　16

○日向小屋リニューアルオープン　吉田和夫　18

○委員会報告
自然保護委員会　南川睦夫　19

○会務報告　毛利邦男　20
ルーム日誌　酒井　広　22
○会員異動　酒井　広　22

○INFORMATION　星　一男　24
○編集後記

http://www.jac-tokai.jp　E-mail room01@jac-tokai.jp　E-mail room01@muse.ocn.ne.jp

平成２５年度支部通常総会

総務委員長　**佐野忠則**

平成25年度支部通常総会

5月18日（土）平成25年度東海支部通常総会が東海支部に隣接する高砂殿で開催された。今年の総会は尾上昇日本山岳会会長と地元からは安藤武典愛知県岳連会長を来賓としてお招きした。

議長を務める小川支部長

定刻の午後5時からの総会に先立ち午後4時から総務委員会による新たに東海支部へ入会した会員を対象にオリエンテーションが行われた。

オリエンテーションは本部と東海支部で作成した映像資料により行われた。その中で本部と東海支部の同好会についても説明があり特に古道塩の道同好会と、新たに設立されたスケッチクラブからは入会の案内が行われた。

以上のオリエンテーションの後、佐野総務委員長の司会で総会が始まった。　最初にこの１年間で篠崎純一、黒田滋、米谷陽作さん等が亡くなっているので、ご冥福を祈って黙とうが捧げられた。

次に小川支部長から以下の挨拶があった。東海支部は、一昨年50周年を迎え、それを契機に昨年から①高齢化対応（若返り）、②組織の改革、③公益的事業の拡大に対処している。　若返りとしては東海学生山岳連盟の育成で現在15大学150名が参加し、昨日の支部での集会には40名が参加し活気に溢れていた。また山ガール講座の充実では25年度は積雪期について対応を計画している。40歳以下を対象とする東海ユースの設立も行い、現在21名が参加している。

また、学生主体の登山隊であるクスムカングル登山隊も派遣することが出来た。

次に組織の改革では支部友会の在籍期限を3年間と設定した。

さらに、公益事業の拡大については、ボランティア委員会、森づくり活動が益々拡充している。さらに支部活性化対応として昨年から同好会制度を発足させ、現在7グループが活動している。

これらの施策により若返りの兆候も感じられるので更なるご協力をお願いしたい。

来賓の紹介の後、審議に入った。小川支部長に議長委嘱の後、定足数の確認では総務委員長からの「本総会は支部在籍者300名の1/2以上で成立する。現在は委任状を含めた179名の出席があり、支部総会は成立している」の報告により、議事に入った。

第一号議案として　柴田副支部長から平成24年度の事業報告と、市川会計より決算報告が行なわれ、野呂監事から全て適正であるとの会計監査報告の後、拍手をもって承認可決された。引き続き第二号議案として平成 25 年度事業計画を柴田副支部長が、予算案を市川会計が行なった。組織図では正副支部長会議、東海ユース、山行委員会の下にあった第 2 山行グループは東海ユースの発足で廃止し集会企画小委員会を設置する案が示された。

続いて本年度は役員改選の年では無いので大きな変更は無いが、新設の東海ユースの代表は山田明美氏、支部友委員長に尾上昇氏とする役員変更案が柴田副支部長から提示された後、拍手をもって承認可決された。

続いて新任役員紹介で東海ユース山田代表からは、その発足の経緯として、過去2年間中日教室の中に山ガール講座を設置し上半期のみ活動してきたが、受講生からもっと本格的に参加したいとの要望があり、安全上も望ましいと云うことで男性も参加可能として設置することとなった。在籍は2年間で21名が活動中である。との説明が行われた。

尾上支部友委員長からは、昨年支部友会の大改革が行われ、最初の発足に中世古隆司さんと

ともに携わった私にその再構築を進めて欲しいとの支部からの要請で引き受けることとなった。新しい支部友会は500人体制を目標に活動を進めたいとの挨拶があった。

以上で議事を終了した。

来賓挨拶

続いて来賓挨拶では新しく愛知県山岳連盟会長に就任された安藤武典氏より、自己紹介の中で、自身は東海支部の湯浅先生、石川前会長、横田さん等に育ててもらい東海支部は憧れの的であった。愛知県山岳連盟の上部団体である日本山岳協会も4月から公益社団法人となり、登山界全体を見て活動することとなり、今まで以上に安全登山の啓蒙、組織の強化が課題となっている。その中で東海支部は今後も登山界をリードして戴きたい。以上の挨拶があった。

続いて尾上会長からは、この6月で4年間の任期を全うし、退任することとなった。

この20年間全国の各組織が衰退傾向となっており、日本山岳会も同じく若年層がいなくなった。4年前私が会長に就任した時、会の平均年齢は67歳であったが、現在も同じであり、なんとか若年層の減少も歯止めがかかった。新しい話題として、四国支部では小島烏水祭が4月に行われたが、今後定例化されることとなった。さらに本年は32番目の支部として群馬支部が発足予定となっている。そのような話題の中で東海支部は活性化の見本であると考えており、今後も仲間を増やすなど活性化に心がけていただきたい。以上の挨拶があった。

クスムカングル隊報告

クスムカングル隊のみなさん

続いてクスムカングル登山隊の登攀報告が高橋総隊長、山田隊長から行われた。

報告は東海テレビで放映されたニュース映像の紹介、隊員が現地で撮影してきた映像などを交えて映像中心で行われた。

以上の登攀報告で支部総会は閉会となった。

懇　親　会

18時40分からは、場所を支部ルームに移し、佐野総務委員長の司会と、安藤県岳連会長の挨拶・乾杯の音頭で懇親会は始まった。冒頭、安藤会長から本年2月に明神岳で遭難した名古屋山岳会メンバー2名が先ほど遺体で発見されたとの報告がなされた。今年度懇親会はクスムカングル登山隊や、東海山岳学生連盟の若い学生の参加も多く会場の支部ルームは熱気に溢れた。

学生や尾上会長を囲んで話も弾み、大いに盛り上がる中で閉会となった。

平成24年度事業報告

期　日	内　容	担　当
Ⅰ登山振興事業(公益目的事業1)		
(1)登山に関する文化・学術の振興事業		
4月～3月	自然観察会(毎月第3土曜日開催)	猿投の森づくりの会
7月1日	東海山岳11号「東海支部設立50周年特集号」発刊	支部刊行物編纂委員会
(2)児童・青少年の育成事業		
4月14日	SON・愛知との知的障害者支援登山(ハライド)	ボランティア委員会
10月20・27日	親と子のふれあい登山教室	ボランティア委員会
11月10日	森の幼稚園森林活動体験	猿投の森づくりの会
2月15日～3月28日	クスムカングル登山隊派遣-南東壁登攀	青年部
(3)スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業		
4月4日	中日文化センター登山教室　開講	登山教室委員会
4月5日	朝日カルチャー春期登山講座　開講	登山教室委員会
4月7日	NHK文化センター春期講座開講	登山教室委員会
4月21日	中日文化センター山ガール登山教室　開講	登山教室委員会
5月13日	春のブラインド登山-視覚障害者支援(朝熊ヶ岳)	ボランティア委員会
10月	中日・朝日・NHK　各センター秋期登山教室　開講	登山教室委員会
(4)事故防止事業		
5月～3月	読図山行　計7回実施	図書委員会
6月16日～17日	雪上技術訓練	青年部
7・12月	チェンソー慣熟訓練	猿投の森づくりの会
11月10～11日	レスキュー訓練	青年部
(5)国際交流事業		
8月18日～28日	日中韓学生交流登山隊の派遣(中国武漢)	青年部
(6)その他目的を達成するための事業		
4月21日	観桜会(法人デーの振替開催)	猿投の森づくりの会
10月27日	森の音楽祭	森の音楽祭実行委員会
Ⅱ山岳研究調査事業(公益目的事業2)		
通年	支部蔵書管理	図書委員会
Ⅲ山岳環境保全事業(公益目的事業3)		
4月～3月	定点カメラなどによる猿投の森の動物生息調査	猿投の森づくりの会
通年	年間28回猿投の森の環境保全作業を実施	猿投の森づくりの会
5月26日	NICEとの協働作業開始	猿投の森づくりの会
6月2日	御在所裏道清掃登山　HAT-Jとの共催	自然保護委員会
6月30日～7月1日	自然保護全国集会(尾瀬にて)	自然保護委員会
10月13～14日	滋賀県田上山地域の植物とはげ山修復の自然観察会	自然保護委員会
10月20～21日	森の勉強会、高島市「くつきの森」(関西・京都・東海共催)	自然保護委員会
2. 共益事業		
4月～3月	月例山行　－27回実施	第一山行グループ
4月～3月	月例山行	亀の会
4月～3月	新人研修山行　－3回実施	第一山行グループ
4月～3月	レベルアップ山行　－4回実施	第一山行グループ
5月19日	支部友会総会	支部友委員会
5月19日	猿投の森づくりの会総会	猿投の森づくりの会
5月19日	支部通常総会　OMCビル4F講堂	総務委員会
1月12日	支部新年懇親会	総務委員会
随時	合宿訓練	登山教室・青年部

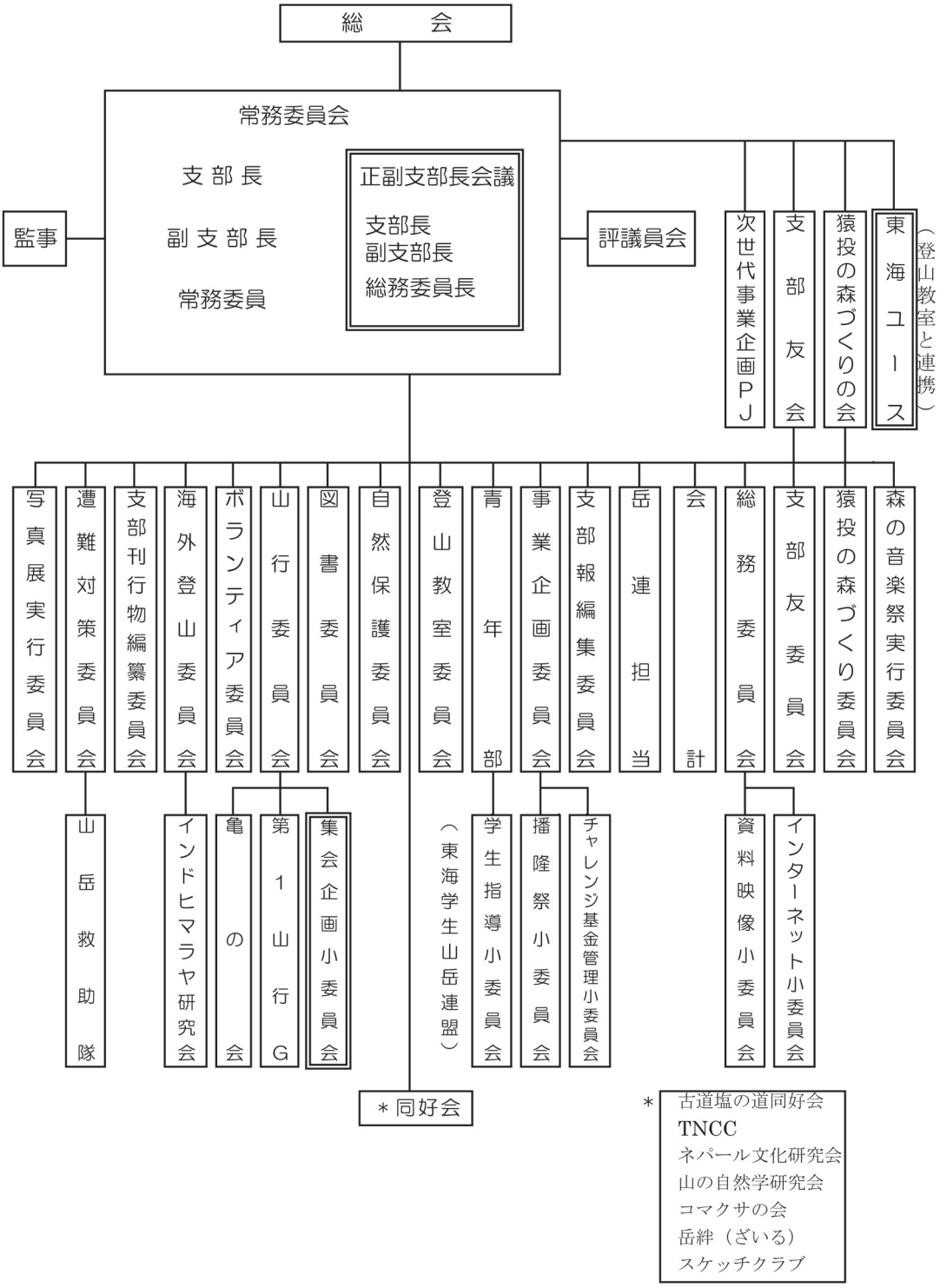
平成25年度事業計画

期　日	内　容	担　当
Ⅰ登山振興事業(公益目的事業1)		
(1)登山に関する文化・学術の振興事業		
毎月第3土曜日	猿投の森　自然観察会	猿投の森づくりの会
3月25日～30日	「第14回東海岳人写真展」開催	写真展委員会
(2)児童・青少年の育成事業		
4月13～14日	知的発達障害者支援登山、SON愛知と協働　水晶岳(鈴鹿)	ボランティア委員会
9月	御在所フェスティバル	青年部
10月19日	親と子のふれあい登山教室　ー尾高山	ボランティア委員会
11月9日	幼稚園児森林体験「森の幼稚園」	猿投の森づくりの会
5月22日～6月15日	マッキンレー登山隊への参加	青年部
(3)スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業		
4月3日	中日文化センター登山教室　開講　(年2期開催　1期6ヶ月)	登山教室委員会
4月4日	朝日カルチャー春期登山教室開講	登山教室委員会
4月6日	NHK文化センター春期登山教室　開講	登山教室委員会
4月21日	中日文化センター山ガール登山教室　開講	登山教室委員会
5月	登山教室テキスト改訂	登山教室委員会
6月29日～30日	夏山フェスタへの協力	夏山フェスタ実行委員会
10月	中日文化・朝日カルチャー・NHK文化　各センター秋期登山教室　開講	登山教室委員会
(4)事故防止事業		
5月～3月	読図山行　計10回実施	図書委員会
7・12月	チェンソー慣熟訓練・安全教育	猿投の森づくりの会
適宜	遭難予防講習会　山岳救助訓練などの開催補助	青年部
(5)山岳環境保全事業		
通年	OSU山桜コース整備	猿投の森づくりの会
毎月2回	定例作業	猿投の森づくりの会
7月6日～7日	全国自然保護集会(立山)	自然保護委員会
7月28日～29日	自然観察山行、霧ヶ峰、「シカの食害の現地視察」	自然保護委員会
9月1日	伊吹山清掃登山　HAT-Jとの共催	自然保護委員会
10月5日～6日	森の勉強会(関西・京都・東海共催)、六甲の森と草原について	自然保護委員会
(7)その他目的を達成するための事業		
5月19日	春のブラインド登山(松尾寺山)	ボランティア委員会
10月26日	森の音楽祭	森の音楽祭実行委員会
11月10日	秋のブラインド登山	ボランティア委員会
11月	猿投の森　法人会員デー	猿投の森づくりの会
Ⅱ山岳研究調査事業(公益目的事業2)		
通年	支部蔵書管理	図書委員会
Ⅲ山岳環境保全事業(公益目的事業3)		
4月15日	ギフチョウ成虫調査	猿投の森づくりの会
5・6月	猿投の森の哺乳類動物生態調査集計資料の刊行	猿投の森づくりの会
2. 共益事業		
通年	支部山行	第1山行グループ
通年	毎月の定例山行の実施	亀の会
通年	各種同好会が企画する各種山行	同好会
通年	毎月の定例山行の実施	青年部
随時	支部集会	山行委員会
随時	支部友新人山行	支部友委員会
随時	指導研修会の実施、岳連主催研修会などへの派遣	青年部
随時	合宿訓練	青年部
5月18日	猿投の森づくりの会　総会	猿投の森づくりの会
5月18日	支部通常総会　高砂殿	総務委員会
1月14日	支部新年懇親会　(高砂殿)	総務委員会

その他
支部報　年4回発行　No.133(4月)　No.134(7月)　No.135(10月)　No.136(1月)支部ガイド　7月
常務委員会　毎月第4水曜日　支部長・副支部長会議　毎月第3週(曜日不定期)
支部評議員会　4月22日

公益社団法人日本山岳会東海支部

平成25年度組織図



２重枠は新規
正副支部長会議は常務委員会が円滑に機能できるよう設置。
東海ユースは登山教室終了者等を中心とした40歳未満を対象とし登山教室と連携し活動する。
山行委員会に含まれていた支部友山行部会は支部友会の内部組織として支部友の山行計画を策定

平成 25 年度　役員

名誉支部員	: 石原國利
支部長	: 小川　務
副支部長	: 和田豊司　柴田清康　山田明美
監事	: 中世古直子　野呂邦彦
常任評議員	: 尾上　昇
評議員	: 石川富康　大口瑛司　杉田 博　長坂　博　箕浦靖夫 横田明信　鈴木常夫　梶田民雄　橋村一豊

常務委員会	**委員長**	**副委員長**
猿投の森づくりの会	: 和田豊司（代表）	
次世代事業企画ＰＪ	: 橋村一豊	佐野忠則
東海ユース	: 山田明美（代表）	土屋昌代
支部友委員会	: 尾上　昇	酒井　広
総務委員会	: 佐野忠則	酒井　広
会計	: 市川義行	
岳連担当	: 市川義行	
山行委員会	: 柴田清康	
支部報編集委員会	: 星　一男	
事業企画委員会	: 支部長直轄	
青年部	: 高橋玲司	山田利行
登山教室委員会	: 天野俶明	鈴木慎吾
自然保護委員会	: 南川陸夫	川合　一
図書委員会	: 石田文男	
海外登山委員会	: 和田豊司	千田敦司
ボランティア委員会	: 前田隆久	夏目正憲
支部刊行物編纂委員会	: 星　一男	西山秀夫
遭難対策委員会	: 野呂邦彦	
写真展実行委員会	: 井上寛之	今田英司
森の音楽祭実行委員会	: 箕浦靖夫	毛利邦男

□ は前年からの変更者。枠なしは重任

クスムカングル南東壁登攀

隊長　**山田利行**（東海学生山岳連盟）

今回のクスムカングル南東壁登山隊の主テーマは学生のみ、アルパインスタイルでクスムカングル南東壁を完登し、クスムカングルへ登頂するというものだ。しかし、それと同時に大切にしたことは、登山隊を一緒に作り上げた仲間が掲げるそれぞれの目標を達成すること、すなわち、アイランドピークへの全員登頂とエヴェレスト街道のトレッキングである。今回の登山隊は東海、関東の大学山岳部員合わせて11名によるもので、クスムカングルへはそのうちの4名（内1名はＢＣまで）、アイランドピークは7名が挑戦することになった。主催となった日本山岳会東海支部の「東海学生山岳連盟」はやる気のある学生は誰でも応援するというなんとも太っ腹な団体だ。その親分である高橋さんに総隊長をお願いし、また、私たちの山や人生における多くの諸先輩方の支えによって、この近年稀に見る学生の大登山隊が誕生したのであった。

行程概要

2月15日　出国
19日～28日　エヴェレスト街道トレッキング　ルクラ～ゴラクシェプBC
3月1日～4日アイランドピーク高所順応登山
9日～11日　クスムカングルキャラバン開始　ルクラ～コテ
13日　第一次アタック（パサンルート）コテ～ゴンディジュンBC経由～5300m付近大岩の基部T.S
14日　T.S～南東壁基部～BC
15日　レスト兼計画ルート偵察
16日　第二次アタック（計画ルート）BC～4800m付近C1
17日　C1～5700m付近C2
18日　C2～南東壁完登～稜線（6250m地点）ビバーク地
19日　ビバーク地～頂上40m手前～BC
20日～22日　バックキャラバンBC～ルクラ
25日　カトマンズ出国
26日　帰国

クスムカングルへ向けて
～楽しすぎたエヴェレスト街道トレッキングとアイランドピーク登山～

アイランドピーク全員登頂

ジャパニーズ11人＋ネパーリー14人で歩いたエヴェレスト街道は本当に「楽しい」の一言で、全員が目標とした行程を踏破することができたのは、隊長として本当に嬉しかった。のんびりヒマラヤの山々を楽しみ、ヤクに癒され、ロッジの食事に一喜一憂し、夜は暖炉を囲んでばかな話をする。その繰り返し。雇った4人のネパール人スタッフと10人のポーター達も信頼できる人々でとてもよくしてくれた。飛行機が飛ばないとか、荷物が届かないとか、毎日、誰かは体調が悪く、たびたび分隊したことも楽しい思い出だ。11人がそれぞれの役割をきっちりとこなし、サポートし合えたことで、アイランドピーク7人全員登頂という素晴らしい結果を出すことができた。本当にみんなありがとう。それらの思い出について書きたいことがたくさんあるが、登場人物と思い出が多すぎる。ここでは書ききれないので、別のところで報告することにする。ただ、隊員の心に一生の思い出ができたことは間違いない。こうして私たちは高所順応を楽しく終え、クスムカングルのスタートラインに立つことができたのであった。

クスムカングル南東壁登攀記録

ゴンディジュン手前から、目標の南東壁を望むことができた。写真で見たそのままの姿がそこにあり、探し求めていたものを見つけた時のようになぜだかほっとした。初めは手前の尾根のせいで「あれ？傾斜全然ないじゃん」とか落胆まじりに言っていたのだが、見れば見るほど傾斜があるように思えてくる。でも連日の安定した天候のおかげか壁は安定しているように見えた。壁を見てどのラインならいけそうかイメージする。当初は、タグナクという村からクスムカングルの東壁へ向かってアプローチする予定であった。しかし、ＢＣまでのガイドのパサンにその話をすると、7年前にタグナク湖が決壊して道が変わってしまい、タグナクからは道がないという。12日、パサンがいうことに半信半疑の私達はパサンが勧めるゴンディジュンからのルートを4700ｍの雪線手前までパサンの案内で偵察に向かう。ゴンディジュンから急な丘を南東壁に向けて登る。4700ｍからは広い雪原になっていて南東壁までのルートが見渡せる。氷河基部までは問題行けそうで、思いのほか近く感じる（ただの幻想だったが）。こちらからのルートなら南東壁の末端から取り付くことができるし、予定していたルートよりも自然でいいなと思った。

第一次アタックの完敗

衛星電話で現地の天気予報を伺うと、16日は悪天の予報だという。今回のルートは氷雪壁で雪が安定していないとどこでも雪崩れる可能性は高い。急遽予報をもらった13日の朝にＢＣ設営と同時にアタックすることに決めた。しかし、自分たちのヒマラヤという広大な山に対する目測の甘さとBCから2日間で登頂するという無謀な計画だったため、壁の基部まで行くのが精一杯であった。さらに、壁の基部から100ｍは絶壁で今の自分達では登れる状態ではなかった。本来予定していたルートではこのブランクセクションの上からトラバースして南東壁に入るもので、まさか壁の基部が登れないとは想像もしていなかった。全員落胆を隠せず、全ての荷物をＢＣに持ち帰り、一回目のアタックは完敗に終わったのであった。

第二次アタック
～祝　誕生日に南東壁完登～

15日　アタックの疲れがハンパなかったが、まだ壁へのモチベーションは失せていない。なんとか残りの日数で登りたい。そんな気持ちで予定を組みなおす。当初の予定通り、16日5000ｍ付近Ｃ1、17日5600ｍ付近Ｃ2、18日アタック、19日ＢＣまで帰還という予定を組む。タグナクまでフラフラしながら空荷で偵察に行く。タグナクでコーラを飲むとなんだか疲れが取れた気になる。コーラを発明した人間は偉大だ。一方、ベースキーパーの鎌倉がコテまで行き、明日からの行動食を買って来てくれた。げんちゃんサンキュー！！

18日
今までで最高の誕生日だった。2年前から夢見ていたヒマラヤの壁に、これから登ることができる。高所順応もうまくいき、天候にも恵まれ、三人とも体調は悪くない。さあ、行くぞ！！みんなもそんな気持ちだったと思う。5時すぎ出発。

南東壁登りだしは東壁側の岩壁基部の雪壁をトラバースする。ロープを出すか迷う傾斜だが、雪崩れそうな感じなので、ロープを付ける。一箇所岩の出た部分があり、慎重に越える。そこを超えた所で傾斜や雪壁にも慣れてきたし、時間短縮のためロープをしまう。100ｍほど左へトラバースをして尾根状の雪壁を快適なダブルアックスで直上する。錫杖の北沢大滝みたいだ。行く手を岩に阻まれ、少し迷って左から巻く。

左に巻くとセラック帯に入り、セラックのリッジを登る。このあたりから、いつものごとくガスが南東壁を包み込む。いつものことなので、焦ることはまったくないが、ルートの判別が難しくなり、セラックの崩壊や雪崩などの不確定要素が恐ろしく感じる。このセラック帯をリードしていた大堀もそれを感じたのだろう。これ以上登るかどうか聞いてきた。時間も登頂想定時間のお昼頃で、近くに見えた稜線のコルへ続くルンゼへも行動スピ

ードが上がらず、なかなか近づかない。南東壁を抜けるには、ビバークするか、夜間行動で下降するかのどちらかになるだろう。迷った時は、三人で話し合う。これは自分の中で決めていたルールだ。みんなが納得した上で行動しなくては、楽しくないし、後悔が残る。十分なビバーク装備もあること、これまでの経験から稜線でビバークしても大丈夫だろうと思っていたこと、たとえ夜間行動になってもトレースさえ見失わなければ下降できるだろうという自信からこのまま進み続けることに決めた。セラックのリッジを抜けた所からコルへ続くルンゼまで、いくつもの襞状氷雪壁をトラバースしていく。壁が襞状になっているため、先の状態が見えないし、ガスの切れ間から進むべきルートを見定めて進むという精神的に疲れる行動がずっと続く。ルンゼまで60mロープで4P。午後6時前ようやく、ルンゼに入る。最終ピッチは稜線まで少しロープが足りず、スタカットからコンテに変えて登り、午後7時ついに南東壁を完登した。稜線に着くと一言ぐらい言葉を交わしただけで、すぐにビバーク地を探し始める。全員思った以上に疲れて果てており、ビバークしたほうが安全だと判断した。明日、朝に頂上へ行けることも嬉しい。コルのすぐ左手にシュルンドの横穴が空いており、見つけた途端「ラッキー」といって一目散に入り込む。中に入ると入り口と奥のほうにクレバスが空いているが、中間地点は平らで問題なさそうだった。すぐに整地して、今日の宿が決まった。天井は低いが、無風だし、3人横になれるなんて最高だ。素晴らしい誕生日プレゼント。ロープとザックを下半身に敷いて体を寄せ合う。さあ、火を焚いてお湯を飲みながらヌクヌクしようかなんてワクワクしていると、持っていたライターが二つともつかず、30分は格闘したが、結局つかなかった。高所で水が作れないのは致命的だったが、飲まず、食わずでただひたすら忍耐あるのみ。

19日

3時間くらいは寝れたか。3人ともぴったりくっついていたため隣が時折、身震いしているのが伝わる。仲間が居てくれてよかったと思うそんな瞬間だ。体が冷え切っているので、日が出る6時くらいに起きだす。外へ出ると快晴。全身に太陽を浴びて力がみなぎる。東峰へのナイフリッジが素晴らしい。ビバーク地から反対側の主峰はすぐ目の前で、主峰への登りも比較的楽そうに見えたので、ロープ1本とスノーバー2本、スクリュー4本だけを持って主峰へ向かった。主峰まではクレバスもなくただの雪原を100mほど歩く。取り付きから主峰は垂直距離にして100mもなさそうだが、傾斜は遠くで見るよりかなり強い。一つクレバスを越えて取り付く。雪の状態がかなり悪く、スノーバーをランニングに取るが、効いてはいないだろう。30m登り、セラックでできた頂上稜線に出る。セラックはシャーベット状の氷の塊でスクリューも効かない。そこで悩んだ末、引き返すことに決めた。頂上まで40mを残して。頂上に行けなかった失望感は一瞬で消え、すぐに頭は下降のことでいっぱいになる。できるだけ登ってきたルートを外れないようにトレースを忠実に下降する。トラバースが多いので、できるだけクライムダウンした。懸垂下降は全体で5回、アンカーはスノーバー、ハーケン、スノーボラード、アバラコフとその状況に合わせてなるべく残置しないように努めた。飲まず食わずで下降し続け、16時C2に到着。C2で作りおきしておいた水をガブ飲みして、BCまで歩き通した。22時BC到着。BCでは鎌倉が紅茶を用意してくれ、パサンが焚き火をしてくれた。二人に感謝しつつ、今回の登山が無事に終わったことに安堵した。

クスムカングル南東壁完登
（奥に見えるのがクスムカングル東峰）

春の二つの支援登山

ボランティア委員会　**前田隆久**

ボランティア委員会の春の恒例行事、SON愛知支援「山岳会と一緒に登山2013」と、2013年春のブラインド登山が行われた。

SON愛知支援「山岳会と一緒に登山2013」は、今回から名称を変更したが、昨年までの知的発達障害者を支援して登山する行事で、今年で13回目となる。（SON愛知とは、スペシャルオリンピクス日本・愛知の略称で、知的発達障害者のスポーツ活動を支援している団体）

菰野町、朝明茶屋をベースに、４月13日（土）14日（日）の2日間、知的発達障害者（アスリート）9名、SON愛知16名、東海支部から支部員以外のサポーターも含め35名の、総勢60名の参加で盛大に開催された。今回は、東海学生山岳連盟から10名の他、看護学校から2名、幼稚園から2名とそれぞれのプロにも参加いただき充実した支援体制がとれた。

初日は3時頃、朝明茶屋にて私たちとアスリートが合流、開会式、対面式の後、恒例の火起こし体験、苦労して起こした火での飯盒炊飯、夕食のカレー作りを楽しんだ。その夜はキャンプファイヤーで、和田副支部長扮する火の神の点火式を合図に燃え盛る炎とともに、幼稚園の先生の司会で楽しい一時を過ごした。

2日目の登山は、朝明茶屋から中峠、県境尾根、水晶岳（954m）の三角点を踏んで、根の平峠から下山、朝明茶屋に戻ってくるコースで行った。途中、根の平峠では学生を中心に恒例豚汁の炊き出しを行い、アスリート達にも喜ばれた。昨年のハライドの反省から、もう少しハードなコースでという事で、今回のコースを設定したが、全員休憩をはさんで6時間以内で登山できた。ここ数年、１泊2日で行っているが、SON愛知側からも好評で、ここしばらくは、朝明茶屋をベースにこのパターンで続けたい。

2013年春のブラインド登山は、昨年秋のブラインド登山が雨天中止になったため、今回天気に関して若干の不安があったものの、下山するまで降らない事を祈って、5月19日（日）滋賀県・松尾寺山で行った。想定通り帰路のバスに乗車する直前に雨が振り出し、まずはこの決断は正解だった。今回は、視覚障害者10名（内全盲の方2名）に対して、サポーター18名という体制で行った。視覚障害者の10名のうち、6名が初参加で、今後も裾野が広がって行く事が期待できる。

朝明茶屋　広場にて

松尾寺山は、霊仙山西北に位置する前山で、高さこそ503mと低いものの、登山道からの琵琶湖、霊仙山の眺望はなかなのものであり、また、頂上付近には滋賀県で比叡山に次いで古いといわれている松尾寺の跡など、山全体に仏教にまつわる史跡も多く、充実した登山ができた。

今回は、障害者、サポーターとも初参加の方が何名かいたが、天気が心配であったため予想以上のペースで登山し全員無事下山出来た。秋は、ブラインド登山も記念すべき10回目となり、一味違う山行を計画している。

また、秋には、幼稚園児たちと登る「親と子のふれあい登山教室」も控えている。ものは試しで、是非一度ボランティア委員会登山に参加されるとよい。障害者の方からの一言が、幼い子の何にも代え難い笑顔が、私たちの支えであり、山の登り方の新しい一面が発見できる筈である。

最後にいつも話しているのだが、ボランティア委員会活動は委員会メンバーだけでは成り立たない活動で、委員会メンバー以外の登山経験豊富な支部員の力、学生のパワー等、たくさんの方のサポートで成り立っている。今後も、幅広いご支援と、ご協力をお願いしたい。

ＯＳＵ山桜フィールド整備キックオフ

猿投の森づくりの会 代表　**和田豊司**

１．主旨

猿投の森づくりの会は“県有林やまじの森”で活動してきました。その隣接地である瀬戸市上山路町の山林（登記面積15,416㎡）を2012年JAC東海が寄贈を受けました。この受贈地を“OSU山桜フィールド”と命名し活用計画を立案し、いよいよ整備が始まりました。

整備開始の鍬入れ式

谷の両側にある現在は暗い森に十分陽が入るように整備することにより、ヤマザクラを始めとする落葉樹の芽生えを促し、それらに依存する昆虫や動物が生息する生物多様性のある森づくりを目指します。また、ベースエリアを造り多くの人が森に親しみ楽しみながら夢を語らい、それらを育む場にしていく計画です。また環境林として猿投の森と整合させて展開します。

この活動は名古屋大須ロータリークラブの資金提供を受け、協働プロジェクトとして展開していきます。

２．利活用概要：

＊「山桜フィールド」を常緑樹の森、落葉樹の森、水辺の森の3ブロックに分けて整備します。

＊「ＯＳＵヤマザクラコース」（通称：OSUコース）、県有林の幹線林道から入るヤマザクラを鑑賞できる遊歩道（約１．５ｋｍ）をつくります。

＊ 水辺の森に現地の材を活用したベースエリア（基地）を作り拠点にします。

＊ ベースエリア周辺に森に親しみ、楽しめる施設（炭焼窯、薪製造、チロリアンブリッジ、陶芸窯、ツリーハウス、木質ペレット製造など）の設置。現在は夢ですがひとつづつ実現に向けて検討していきます。

＊ 整備状況みながら、諸施設を使って楽しむグループを結成し活動していきます。

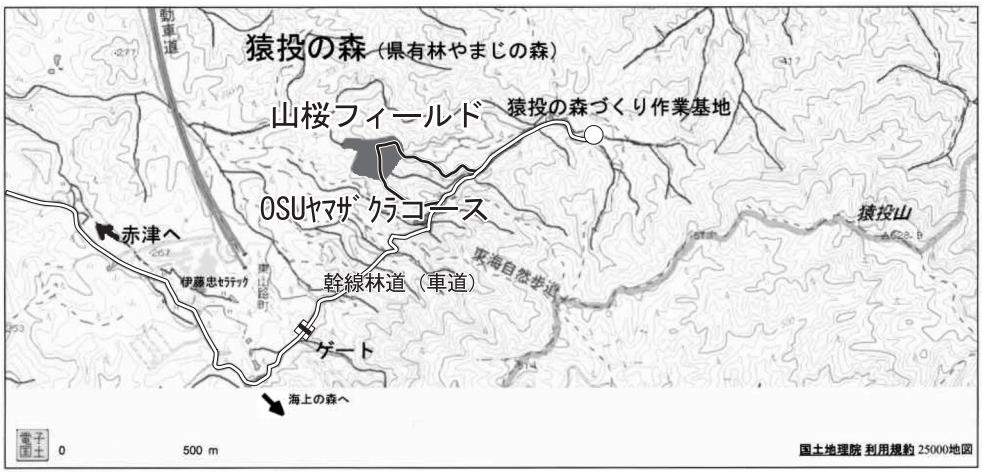
３．スケジュール：

＊ 2013年度：「OSUコース」整備、ウッドデッキ設置、道具小屋設置、看板類設置、樹名板取付など基盤整備期間。

＊ 2014年度～2018年度：諸施設の設置、水辺の森周辺の遊歩道整備、県有林第一地区との連絡路整備などを進めながら森に親しみ楽しむ期間。

＊ 2018年度以降：施設や森の点検・整備を継続しながら森に親しみ楽しむ期間。

山桜フィールド概略図



東海学生山岳連盟 新入会員集う

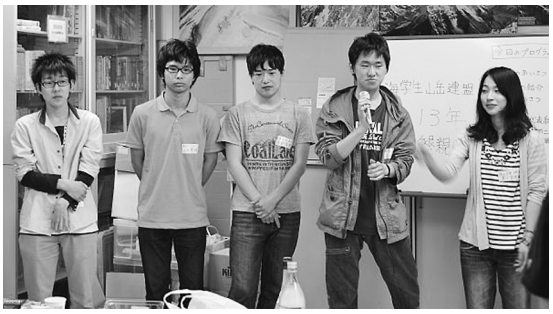
青年部委員長　**高橋玲司**

去る5月17日（金）19時から、東海支部ルームにて、恒例となった東海学生山岳連盟の新入生歓迎会が行われた。開催の事前準備、当日の運営全てを連盟役員で行なうことが出来たことは良かった。連盟を代表して、堀内 晃君（名工大）の挨拶で始まった。新入学生の紹介には、岐阜、岐阜医療科学、愛知学院、南山、名古屋工業の5校から31名の参加があった。

愛知学院大学

岐阜大学

岐阜医療科学大学



南山大学

名古屋工業大学

この後、クスムカングル遠征について、村越 稔会員が制作協力したDVD等による報告や、ゴザフェスの紹介などを行なった。今年は女性の新入生も多く、多様な活動の場を視野に入れた運営を考えている。

東海支部俳壇

鈴鹿・釈迦ヶ岳　　西山秀夫

菰野町千草の里

麦秋の畑の奥なる鎌ヶ岳

庵座の滝

真白なる布垂れるごと梅雨の滝

新樹の間滝の水げに白し

シロヤシオすでに落花と知らず踏む

登り着けば迷彩服が屯せり

ほととぎす何処に隠れて居りぬべし

万緑や紅一点のヤマツツジ

鳴滝コバから150m下の現場へ

登山綱（ザイル）手に谷を下りし捜索隊

汗のシャツ脱ぎすて釈迦の湯に浸る

同好会紹介コーナー

東海支部会員が有意義なクラブライフを享受するための組織として同好会が発足しています。同好会とは、東海支部会員が同好の士と東海支部の事業目的に沿った多様な活動を通じて有意義なクラブライフを享受しようする集りで、総務委員長の所定の承認及び常務委員会への設立報告に基づいて登録された会をいいます。同好会は支部の会議室等の施設、設備、支部報及びホームページを利用することができます。東海支部会員なら入会自由であることが前提です。同好会規約及び設立の申込み方法は本年度の支部ガイドに記載してあります。同好会が設立された場合は支部報等で告知します。この度、7番目の同好会としてスケッチクラブが設立されましたので紹介します。

スケッチクラブへのお誘い

スケッチクラブが発足しました。山容・ルートのスケッチや、高山植物の写生等、興味ある方が多いと思います。

絵心は登山の味を深め、境地を広げます。街道や風景など対象は広く、写真との併用もOK。経験・腕前等心配ご無用、きっと教え合えます。

仲間が居れば、山域を歩くのに心強く、楽しさも倍加します。

「スケッチはそこそこに、弁当良し、傾杯なお楽し」…そんな同好会がスケッチクラブです。お待ちしております。

◆ 照会・入会申込は、下記事務局員へ

杉田　博　　052-771-6555
村中征也 seiyaalpen@yahoo.co.jp
052-799-0363
加藤和子 mk-katos@ma.medias.ne.jp
052-604-7807
武内喜代子 masaru-@yk.commufa.jp
0568-81-9471

◆ 発足スケッチ行

日時: 7月27日(土)　AM. 9:50
集合場所: JR中央線・定光寺駅改札口
9:09名古屋→9:44定光寺
** 車不可、JR利用厳守
行先: 愛岐トンネル跡遊歩道・特別入場
持物: 懐中電灯・弁当・飲物・雨具
天候: 雨天の場合、行先変更して決行

○ 参加申込は、上記の事務局員まで

同好会一覧

No.	名称　代表者	設立目的
1	古道塩の道同好会　山中光子 mitsu.k@lagoon.ocn.ne.jp	山村の生活に欠かすことのできない塩の流通に果たした塩の道を探索する。
2	TNCC　中世古直子 fujinaoko8156@yahoo.co.jp	自立して山行が出来る仲間増やし共に良き山行ライフを楽しむことを目的とする。(東海支部Nice Climbing Club)
3	ネパール文化研究会 梶川あゆみ mayaluayumi@yahoo.co.jp	ネパールの歴史、言語、音楽、地理、民俗などネパールの文化を知ることで、ネパールという国をより深く理解し、日本とネパールのより良い関係を探る。
4	山の自然学研究会 大坪重遠 MHH02176@nifty.ne.jp (副)佐野忠則 tsano001@yb3.so-net.ne.jp	山の自然についての観察を行うことにより、技能・知識の研鑽・蓄積を進め、山岳環境保全に寄与することを目指す。具体的な活動としては高山植物・寒冷地植物や動物、氷河地形や山の地質・地形等の巡検を国内及び海外において行う。当面、本部に所属する同好会「山の自然学研究会」と一体的活動を行う。
5	コマクサの会 松本陽子 yo-kom@nifty.com	四季折々に咲く山野草や高山植物を観察しながら山歩きを楽しむ。また、季節に応じた山遊び(山菜採り、野外パーティー、スノーハイク)等も取り入れ、アウトドアライフを楽しむ。
6	岳絆（ざいる） 夏目正憲 info@ta93.biz	中年世代を中心とした会員の更なる登山技術の向上と親睦。
7	スケッチクラブ杉田　博 (副)村中征也 seiyaalpen@yahoo.co.jp	スケッチを通じた活動と親睦をはかる。

支部友会コーナー

支部友会委員長　**尾上　昇**

支部友会委員長就任のご挨拶

今年度の総会で支部友会委員長を命じられました尾上です。

本部での長いようで短かった４年間の厳しい任務を終え、今度東海支部に帰ってまいりました。やっぱり東海支部の存在は、私にとりましては、暖かい我が家と同じでほっとしているところです。

さて、これからはと、加藤守彦さんにお願いして、亀の会にでも入れていただいてのんびりと山歩きを楽しもうと思っていた矢先、支部の執行部から支部友会委員長を引き受けろとのご託宣です。

支部友会の制度が大きく変わったことは、皆さんご存知の通りです。一時期は、２５０名を越す大所帯となり、東海支部の存在を示す、一大勢力となりました。

組織は、長い間放置しておきますと、マンネリに陥ったり形骸化が目立ち活力を失います。東海支部の支部友会もご多分に漏れず設立して２０年を経る近年、特に組織の硬直化が顕著になっていました。一番の弊害は、支部友会をツアー会社と混同している支部友会員が大勢を占めるようになってしまったことです。そもそも支部友会は、不肖、私と故中世古隆司さんとで立ち上げた組織で、各種の登山教室の卒学生の一時的な止まり木としての存在でした。行く行くは、支部員へとのいわばＪＡＣ会員予備軍としての位置付けでした。

ところが、特別なルールを定めなかったことから支部友会から支部への転籍組が少なく、支部友会員の員数だけが増えてしまいました。その結果、先述のような支障が起き段々とツアー会社化していったのです。

これを打破する制度が昨年施行されました。支部友在籍期間を３年とし、この間に支部員すなわちＪＡＣ会員にご登録下さいという、大幅な改革です。

これにより、多くの支部友がＪＡＣに入会されましたが、また一方で多くの支部友が支部を去りました。今年の５月末日現在の支部友の人数は、丁度５０名です。今年度からは、いわば、支部友会の再スタートです。元々の設立に携わった私に、再興という白羽の矢が立ったのも何かの因縁と諦め、その命に従うことにしたのです。

難しい事は考えていません。いま流行の言葉をお借りするなら、支部友会再興のための成長戦略として、１．支部友会独自の山行計画の立案と実施、２．支部友集会の復活、３．支部友会独自の登山教室の開催の３つを揚げさせていただきます。これを基本に支部友会員数３００名を目標とし、毎年５０名ほどの支部友を支部に送り出したいと考えています。

いわせていただくのなら、支部友会成長戦略３本の矢、オノエノミクスとでも呼んでいただければ幸甚です。何卒宜しくご支援賜ります様、お願い申し上げます。

支部友会員数

Ｈ２５／３月末
在籍期間満了退会者　４２名
支部会員への転籍者　２８名

Ｈ２５年度　４～５月
入会者：なし
退会者：２名
５月末現在　５０名

支部友委員会からのお知らせ

支部組織改革に伴い、支部友会規約の廃止と支部友会運営要領の施行についてお知らせします。

規約からの主な変更点は
１．名称変更　規約→運営要領
２．会員資格・在籍期間の明記
３．山岳保険の加入義務
４．会の総会・解散権限の廃止
５．会の運営・改定に関する事項

詳細は JAC-TOKAIGUIDE2013 の巻末ページに掲載

支部友委員会　酒井　広・記

会員の広場

地元で大歓迎を受けた亀の会傘寿山行

亀の会　加藤守彦

亀の会は、2008年7月に産声をあげてからちょうど5年になる。

5月現在構成員49名。80歳台が83歳を筆頭に3名、70歳代は29名、70歳未満17名である。

発足以来、毎年、数え年80歳の傘寿者を祝う傘寿山行を実施し、今回で8人目になる。

今年は、長野県飯島町の傘山1541.8mに行くことにした。スタート地点の町民の森広場までマイクロバスで行けるよう、昨年11月に飯島町役場の了解を得て、林道に覆いかぶさった樹木の枝を伐採した。更に、今年雪解けの後の落石除去のために、再度出かけた。

こんな様子を、下見の都度、山頂の「登山者交流ノート」に匿名（「東海市　加藤」、や、「東海市ＭＫ，ＫＫ」）で綴った。これが、地元の「南駒里山クラブ」の目にとまり、記入者の連絡先を探したうえ、「“傘寿記念に、全国の傘山の中で最高峰の飯島町の傘山へ登ろう。”というキャンペーンを広めるいいチャンスとしたい。」との思いで、飯島町や中日新聞飯田支局等に働きかけ、歓迎準備が始められた。（このいきさつは、5月17日付中日新聞南信総合版に4段記事で載った。）

南駒里山クラブ（会員60名）は、5月23日の亀の会山行日に照準を当てて、5月に2回、登山道の整備、展望のきく場所の枝の伐採等を行い、林道についても、落石の除去をさらに入念に行っていただき、山行日の前日「安心してマイクロバスでおいで下さい。」との連絡を頂いた。

さて、当日、現地に近づくと、歓迎のボードが林道入り口や曲がり角に設置されたのを目にし、皆で歓声を上げた。更に「町民の森広場」には、もっと大きな歓迎の看板。南駒里山クラブ4人、飯島町役場2人、新聞記者2人の計8人の出迎えを受けた。傘寿の石田好子さんは、早速2人の記者から取材攻めに遭った。

皆さん揃って、いざ傘山へ！林道の終点は、中央アルプスの雪をかぶった南駒ヶ岳、仙崖嶺、越百山などの眺望の素晴らしい所。南駒里山クラブ会長の説明を受ける。登山口には、怪我人等の搬送用に軽トラックまで準備されていた。また、途中の見晴らしのいい所には、ベンチも作られていた。

山頂にも歓迎の看板。傘寿の石田好子さんを囲んで記念写真。地元の方々は、先に下りて、傘寿の祝宴会場の千人塚公園へ。我々が着いたときには、山菜の天ぷらの料理の真っ最中だった。手厚いおもてなしに、亀の会の面々は、大感激。

南駒里山クラブ会長から、「これを機会に、“傘寿記念山行は、飯島町の傘山へ”を強くアピールしたい」旨の挨拶を受けた。同行した中日新聞、長野日報（発行部数４万部の地域新聞）が、そのことを記事にするはずであった。しかし、中日新聞は三浦雄一郎氏の「８０歳でのエベレスト登頂成功」の偉業の記事に埋もれ、小さく載った。長野日報は、社会面のトップで載り、飯島町も、ホームページの「まちかどトピックス」で紹介した。

亀の会の傘寿山行に、こんな熱烈歓迎を受けるとは思ってもみなかった。感激と同時にこそばゆい思いをした山行だった。傘寿を迎えた石田好子さんには、忘れえぬ傘寿祝いとなったと思う。来年は、3人が傘寿を迎える。

参考：全国の傘山
長野県飯島町1541.8m、長野県四賀村1125m、
岐阜県高山市1331m、
岡山県新見市1026m、広島県大竹市650m、大分県中津市396m、東京都父島248m

ニュースヘッドライン

傘寿記念に傘山登山　11

日本山岳会東海支部の65歳以上の会員でつくる「亀の会」が23日、今年傘寿（80歳）を迎えた会員を祝い、飯島町の傘山で記念登山をした。

長野日報　上伊那版　5月24日付

マッキンリー登頂

中山秀樹

定年より少し早い退職を機に、しばらく遠のいていた海外登山をまた再開しようと思っていた。仕事の都合で適期の入山を諦めていた山域にチャレンジするチャンスでもある。帰れるだろうかと考えながら見下ろす足元に広がる景色、山に登ることのみに悪戦苦闘した日々が思い出される。ヒマラヤの高峰にチャレンジしたいと言う仲間が入会してきたこともあって話が進み、1･2年後の目標のためのトレーニングとしてマッキンリーを選んだ。

1　登山計画

TAC Japan 2012 (Mt.Mckinley6,194m)
豊橋山岳会海外登山研究会マッキンリープロジェクト2012

目　　的　　海外登山を楽しみ、北米の最高峰に立つ
登山期間　　2012年5月15日～6月12日
山　　名　　アラスカ　Mt.マッキンリー(6,194m)ウエストバットレス

（チームメンバー）
中山（57才）日本山岳会東海支部
　　豊橋山岳会
金田（63才）日本山岳会東海支部
　　三河クラブ　豊橋山岳会
稲吉（28才）豊橋山岳会

2　行動概要

5月15日　成田空港からシアトル経由でアンカレジまで
　　17日　車でタルキトナまで送ってもらいオリエンテーション　その後、軽飛行機でカヒルトナ氷河LP(ランディングポイント)へ
18～20日　LP～C1～C2～C3
21～23日　C3～MC(メディカル・キャンプ)
25～26日　MC～AC
　　27日　ACより山頂往復
　　28日　AC～MC
29～30日　MC～C3～C2～C1～LP・軽飛行機でタルキトナまで
　　31日　管理事務所への報告
6月　1日　アラスカ鉄道でアンカレジまで
以後、各自自由行動で6月12日帰国。

3　山行を終えて

(天候)登山において気になることの1つは天気である。今回の場合、幸運なことに天候が随分味方をしてくれた。毎日、朝から天気が良かった。昼過ぎになると雲が上がってきて雪がちらつくが、18時ころにはまた、晴れ間が見えるようになった。そんな1日のサイクルが、少し悪いか良いかと言う感じだった。風はずっと弱く、下山を始めた28日くらいから出てきた。

登山中、天気予報を航空会社のTATが無線で教えてくれるが聞き取れなかった。英語がわからないこともある。MC(メディカルキャンプ)には医師も常駐しており、掲示板に4日先の天気予想まで詳しく書かれていて参考になった。

アラスカは緯度が高いため1日中明るく、本当に明かりはいらなかった。だが、日が射さないと寒い。南から氷河を北上して西面から登って行くので、山の陰から太陽が顔を出す9時くらいが行動開始時刻だ。朝は特に寒い。山頂往復の朝も9時出発だった。ACを出発する時は日光が当たっていたのだが、デナリパスへの登りで山の陰に入った。すると、薄手の手袋をした手が、指先からみるみる凍ってきた。朝は特に気温が低いようだ。しかし、出発が遅くても問題はない。帰幕が遅くなっても闇は来ないのだ。登頂を終えてACに戻ったのは午後8時過ぎであったが、写真のようにまだ、高い山の無い西から陽が射しており、デナリパスからの下りではしばし日向ぼっこをした。1日の天気の変化を考え、晴れる時間に山頂に立てるように出発したい。

(橇とスノーシュー)
荷物運び用の橇(スレッジ)は軽飛行機の航空会社で貸してくれる。2人乗りの樹脂製。子供の橇遊び用の物と変わらないが、割れてしまうことはなさそうであった。スノーシューの練習はしたが、橇を引く練習をしていなかったため、18日の歩き始めから悪戦苦闘した。荷物は一人分が40kgくらいあった。肩のザックと橇との重量バランス、橇の荷物の重心の位置、下りと登りのロープセットの仕方など、日本で試しておかなかったことを後悔した。隠れたクレバスへの転落に備えて互いをロープでつなぎ合い、互いの間に橇をセットした。私は肩に10kgほど担ぎ、橇に30kgほど乗せた。

帰路29日、MCからクレバスを避けながら緩やかな斜面をジグザグに下り、尾根の側面をトラバースするとウインディーコーナーに着いた。トラバースではお互いの間の橇がずり落ちてしまう。重心を橇の前の方にすると横滑りしにくく、後ろからのコントロールがしやすいようだった。橇を間に入れて歩くことを考え、1台はC3にデポしてきた。

トラバースを過ぎるとスクアレルヒルと呼ばれる尾根状からモーターサイクルヒルに下る。北面をトラバース気味に下るのだが、28日から吹き始めた風が雪を吹き飛ばし、氷が現れていた。橇が柱時計の振り子のように大きく揺れ、私を奈落の底へと引き込もうとする。長い距離ではないが、絶対に滑落できないところだ。一人でも滑れば全員が引き込まれてしまう。(モーターサイクルヒルから氷河上のC3への下り斜面は、宮城県の4人が2週間後に亡くなる所だ)

(食糧)　食糧はアンカレジのスーパーで購入した。朝食、夕食以外の3週間分の行動食は各自で購入したが、行動時間が1日5・6時間でビスケット5・6枚だけの日もあり、随分余ってしまった。朝夕の食事は、明るいのでゆっくり調理して食べた。マッキンリー登山の経験のある会員から聞いていたのでハムやベーコン、鮭をたくさん買ってモリモリ食べた。主食をパスタやシリアルにし、日本からは好みの調味料とα米を少し持ち込んだ。また、ジェットボイルの鍋を使用したので燃料が節約でき、3人でガソリン５Lを使用したのみで半分以上が余った。

４　終わりに

前年の夏からマッキンリーのためのトレーニング山行を始めた。そして、出発までに数日間の登山を3回と雪上訓練を隊員メンバーで行い、チームワークも築いた。

9月、ATSに渡航の手配をお願いした。予備日を含めて登山だけで3週間、全体では1ヶ月、6月より5月の方が登頂率の高いこともATSのNさんから教えて頂いた。

1月になって、現地の案内をしてくださるKさんをNさんから紹介して頂く。Kさん夫妻はアンカレジでB&Bも経営しており宿泊もお願いした。

Kさんから頂いた「マッキンリー登山の手引き」に従い、デナリ国立公園管理事務所のHPにアクセスして登山申請をする。苦手な英語に悪戦苦闘しながらも、カードでの支払いとオリエンテーションの予約もできた。入山料の支払いは各自が行い350＄を各々が支払うが、それには捜索や救助のための費用が含まれている。

以前の海外登山では、BC以上を隊員だけで活動し、ルート工作も荷上げも自分たちで行ってきた。山も高くなく他の隊もいないためだった。だが、さすがに有名ルートではトレースがある。目印のポールが50mおきに立ててあり「ルートから外れないように」と、レインジャーから教えられる。苦労は減るが雪山登山の醍醐味は少ない。観光登山ともいえるし、天気が良くて降雪が少ないので仕方がない。しかし、天候が悪化してルートが判然としなくなり、高所で吹雪に閉じ込められたときには、非常に危険な状況に陥ることになるのかもしれない。

日向小屋（ひなた） 7月3日リニューアルオープン

オーナー梅田浩生（うめだひろお）さんを訪ねて

平成20年秋の、御在所・藤内沢の集中豪雨を覚えているだろうか。我が東海支部にも、菰野町から調査依頼があり、災害状況把握のため藤内沢を捜索した。登山道はズタズタで、北谷小屋以外の小屋は大変な惨状であった。梅田さん所有の日向小屋では、土台がほとんど流され、日向倶楽部の会員諸氏による懸命の復旧作業を行なっていた時の模様が思い出される。

あれから5年近くが過ぎた。今年の夏に再オープンするとの知らせを聞き、梅田さんと日向倶楽部の皆さんに、再オープン前の新装なった小屋の食堂で話をうかがった。

リニューアルオープンする日向小屋

梅田さんのプロフィール

フランス・シャモニーのツールロンド北壁を登っている熟練のベテラン登山家である。また、ご自身の登山仲間で日向倶楽部を主宰されている。

日向倶楽部は、梅田さんが若い頃から登山をともにした仲間の集りだ。会員は、札幌、愛媛など全国各地にみえるが、現在でも、梅田さんとの交流は昔と変わらない。

日向小屋は、梅田さんが21歳の時［昭和38年（1963年）7月］、ご自分の夢であった山小屋を持つことを実現して始まる。心暖かなお母さんと奥様と共に切盛りしてきた。昭和47年の水害で小屋の一部が流された事があり、此の時も、小屋の復旧を行い、続けてこられた。しかし、平成20年9月の豪雨災害では小屋は完全に使用不能となった。平成23年秋頃から小屋の上の堰堤工事があり、平成24年10月頃から小屋の前の護岸工事などの公共工事が進められてきた。

そんな中で梅田さんは、現在の場所（初代の小屋より50メートル下）に第2代日向小屋の建築に向けて奔走した。三重県の窓口を相手に保安林の解除・国定公園の解除など、ご自分で複雑な書類手続きを乗り切り、ようやく建築にこぎつけた。その間、ご家族をはじめ日向倶楽部のメンバーが労力、資金など多方面から支援を惜しまなかった。

そして、初代日向小屋の建造から数えて50年目の今年7月3日（水）に、第2代日向小屋をオープンする。

右から梅田さん、日向倶楽部の寺澤さん、市川さん、安藤さん

1階の団欒室と2階の和室

第2代日向小屋は初代より広くなり、１階は洋室30帖ＬＤＫ、洋室10帖とトイレ、２階は和室18畳とゆったりとした広さで、木の温もりのある無垢材を使用し建築した。完成間近である。

東海支部のみなさん、今年の夏からは御在所岳へ登山の際には、是非、日向小屋にお立ち寄りいただきたい。（文　吉田和夫）

委員会報告

【自然保護委員会】

猿投の森（山路の森）の動物調査に参加して猿投の森にどんな陸生哺乳類がいるか調査することになった。

猿投の森（県有林・やまじの森）の愛知県有林から借り受けている瀬戸市と豊田市の境界線沿いから北西面に広がる１５０ヘクタールを１４区画に分けて調査に入る。当初の調査方法の目的であった区画法による調査のためモデル調査区を５区画選定し、2012年3月10日に１区画に３～４人が担当して18名で一斉調査を実施した。

その調査の結果、動物の痕跡（食痕、足跡、糞、ヌタ場、角研ぎ跡等）が多く見つかり、それらの痕跡と猿投の森づくりの作業者、登山者からの情報を得ながら、決められた14区画に遠赤外線カメラを定期間設置して４月６日から展開してきた。初めは思うようにカメラに動物の姿が写らずカメラ設定の難しさを感じていたが、永年山を歩いた勘を頼りに獣道を始め各種動物が行きかう水場等の場所（動物が多く集うオアシスのような所）が判り出して来たのは初夏の候になり、その頃には森の作業者、登山者からもカモシカ出現の情報が入り、定点カメラにも昼間も夜間もカモシカがカメラに収められた。

カモシカの岩立ち

5月下旬から9月の下旬は樹木と下層の植生が茂り、効率が上がらず、落葉がはじまり林間の見通しが良くなる頃が好時期であり、動物調査は秋から春の季節が効率の良いことが判ったのは調査の終わる頃であった。

又動物たちも人間と同じで急峻な場所は好んで歩かず安全で安易な所を道として選んでいる。

掘おこしに興じるイノシシ

ノウサギは３０年前には日本の各地で普通に見られたし、唱歌にも「うさぎ追いし、かの山・・」のどかで素朴なふるさとの象徴として親しまれた動物のひとつであったが最近各地で減少傾向である。そのノウサギが最近猿投の森で整備された地区に現れだした。ノウサギは敵と戦う武器は持たず、感度の良い耳で敵を感知し一目散に逃げる。広々として見通しが良く，傾斜面でない林床環境が良い所に現れる。

又ウサギの天敵であるキツネも晩秋の11月より、カメラの画面が捉えだし、食物連鎖が形成されつつあり、生物多様性が少しずつ進み、猿投の森（やまじの森）が自然豊かな森に成りつつあるのかなと思われた。

1年間の調査であったが動物の各種痕跡、目撃（遭遇）情報とカメラが捉えた陸生哺乳動物類は、ニホンカモシカ、イノシシ、キツネ、タヌキ等15種が確認された。詳細は近く発刊される「猿投の森（やまじの森）の動物写真集」を参照して欲しい。

自然保護委員長　南川　陸夫

会　務　報　告

【2013年3月常務委員会】

日時：3月27日（水）19時～20時30分

１．小川支部長挨拶：

　クスムカングル登山隊は所期の目的を達成し3月26日無事帰国したとのこと。

アイランドピークは全員登頂、 クスムカングルは山頂を極めることは出来なかったが、目的としていた南東壁の登攀には成功したとの由。

２．佐野総務委員長：

①各委員会の24年度事業報告と25年事業計画の報告を 4 月初め頃を目途にメールまたは書面にて報告して欲しい旨依頼があった。

②今後の予定　－　4 月 22 日に評議員会、5 月 18 日に支部総会(高砂殿において)が開催予定である旨案内が有った。

３．委員会報告

①会計（市川）－

・登山教室より余剰金20万円の入金があった、

・平成25年度ルーム年間使用料72万円の支払いをした。

・会計監査　－4 月 17 日（水）にルームで行う旨案内があった。

・各委員会の平成25年度予算について一部の委員会から下記要請があった

※　写真展　－来年 3 月開催予定の写真展会場費¥81,600 の支払いが近日中に発生するので支払いをお願いしたい。

※　登山教室　－新テキストは 5 月に出来る予定であるが、400部ほど印刷する予定なので20万円ほどの資金手当てをお願いしたい。

※　支部友　－　チラシ印刷費用に70,000円お願いしたい

※　山行委員会　－　山行委員会主催で支部集会開催を計画しているので、山行委員会の予算としては、講師手配費 80,000 円を加え 10 万円で考えて頂きたい。

※　他の委員会については、おおむね昨年並みで良いとのことであった。

②岳連（市川）

・日山協　－来年には公益社団法人に移行する予定とのこと。

・4 月 21 日までに山行計画提出を依頼されていること、4 月 25 日に遭難対策会費が開催予定である旨報告あり。

・愛知山岳マラソン大会が3月9日猿投山で行われ64名が参加したとのこと。男子の部の最速タイムは駐車場から山頂まで30分15秒、女子は44分26秒だったとのこと（距離52㎞）

③支部友委員会（酒井）

　4 月以降の支部友会員数は 54 名となる見通しである旨報告あり。

③山行委員会（柴田）　－　2ヶ月に1回開催していた支部友集会に代わり、支部友及び支部員を対象にした支部集会開催を企画している。ついては支部集会小委員会を立ち上げ新味をだした支部集会の企画を検討している旨報告。

④猿投の森づくりの会（中村）

観桜会を4月6日開催するので多くの人に参加して欲しい旨依頼があった。

⑤猿投の森づくりの会（和田）

「JAC猿投の森」の有効活用について、配布された資料に基づき、活用概要、スケジュール及び予算・資金計画につき説明と同時に常務委員会の承認を求められ、 常務委員会はこれを承認した。あわせて、猿投の森の作業小屋の撤去問題に関する現状説明があった。

④支部報編集委員会（星）－　支部報133号は3月29日に発送すると同時に、「夏山フェスタ」のチラシも同封する旨案内有。

⑤青年部（高橋）

・25 年度活動計画　－　配布された計画書に基づき説明あり。

・クスムカングル登頂報告　－悪天候の為頂上を極めることはかなわなかったが、所期の目標であった南東壁の登攀には成功した旨報告あり。 続いて登山隊隊長山田および参加した隊員からもそれぞれ簡単な報告を受けた。 詳しくは、支部総会にて報告会を改めて持つこととなった。

⑥登山教室委員会（天野）－4 月からは、4 教室体制となる予定であるとのこと。 登山教室用改定版テキストは 5 月にも出来上がる予定である旨報告あり。

⑦自然保護委員会(南川)　－　2012 年の活動につき、活動報告書が配布された。　2013 年行事予定については、配布された3月の議事録に基づき報告を受けた。

⑧ボランテイア委員会（前田）　－　平成 24 年度事業報告ならびに平成25年度事業計画につき資料が配布された。

⑨写真展委員会（井上）－来年3月開催予定の次回写真展の会場の確保が出来た旨報告あり、

但し開催日程については、会場の市民ギャラリーからの返事待ちの状態とのこと。
⑩図書委員会（石田）－平成 24 年度事業報告ならびに平成 25 年度事業計画につき資料が配布された。
⑪遭難対策委員会（野呂）－青年部による御在所でのトレーニング中マイナスの滝にて、背中に落石を受けたことによる滑落事故があった旨報告あり。　８０ｍ滑落し、ろっ骨を折ったが命に別状はなかったとのこと。
⑫森の音楽祭（箕浦）-今年も 10 月 26 日（土）に森の音楽祭を開催する予定であること、演目はドボルザークの交響曲第９番（新世界より）である旨披露された。
⑬総務（佐野）－日本山岳会入会申込書の書式は A4 版のものに変更になっているので注意して欲しい旨要請あり。　又東海支部の支部会員は現在 302 名ほどであるが、正式な数字は 4 月に報告する予定であるとのこと。10 月 20~21 日に開催予定の今年の全国支部懇談会はお隣の静岡支部の担当なので、東海支部から沢山の方に参加して欲しい旨要請あり。

出席者：　尾上、小川、中世古、箕浦、野呂、和田、柴田、山田、佐野、酒井、市川、中村、星、高橋、天野、南川、前田、井上

【2013 年 4 月常務委員会】
日時　：4月24日（水）19時00分～20時30分
１．小川支部長挨拶：
　自然保護委員会並びに猿投の森づくりの会で活躍されていた黒田支部員が去る1月20日された旨報告。
２．平成24年度事業報告案並びに平成25年度事業計画案　－　佐野総務委員長より配布された資料に基づき説明あり、　修正・追加必要な事項あれば連絡をお願いしたい旨依頼あり。
３．平成25年度組織図・役員　－佐野総務委員長より配布された資料に基づきH25年度組織図・役員につき説明。但し、総会提出の組織図には同好会の名前も入れる予定とのこと。又OMCウオール連絡会についてはこの一年間特に開く必要が無かったこと及び必要があれば総務委員会が窓口となるので組織図から外す予定とのこと。
４．平成24年度会計報告並びに平成25年度予算案　－市川会計より配布された資料に基づき説明あり。
但し平成25年度予算案の収入の部‘旧支部友会から繰入’の金額は原案は250,000円となってい.が353,936円で確定しているのでその金額に修正の上総会に提出することとなった。
５．委員会報告：
①岳連（市川）：愛知岳連の石川富康会長が退任し、安藤武典氏が新会長に就任したとのこと。
②支部友（酒井）：平成24年度の入会者は11名、77名が支部友から支部員に転籍、93名が退会し、4月からは52名でスタートした旨報告あり。また支部友独自の会計口座を廃止し支部の会計に一元化するのに伴い、残金￥353,936を支部の銀行口座に繰り入れた旨報告あり。
③山行委員会（柴田・石田）：下記報告あり：－
亀の会　－3月で会員資格喪失の方たち送り出す送別山行が実施された。
第1山行グループ　－配布された資料に基づきH25年度事業計画につき説明。運営委員11名、山行リーダー22名の体制で取り組むとの事。あわせてホームページの整備を引き続き行う予定とのこと。
④猿投の森づくりの会（和田・中村）：
OSU山桜コース整備の件　－平成25年度中に整備のめどをつけるため5月6日に作業計画の打ち合わせを行うとのこと。
作業小屋撤去の件　－　4月30日役所と打ち合わせを行う予定である旨報告あり。
⑤支部報編集委員会（星）：7月発行予定のNo.134号の内容につき、配布された資料に基づき報告。
⑥青年部（高橋）：配布された資料に基づきH24年度活動報告並びにH25年度新役員体制・活動計画の説明を受ける。　日中韓交流登山については青年部としては今年は関与しない予定とのこと。
⑦登山教室委員会（鈴木）：3月22日にH24年度の報告会を開催したとのこと、H25年度の新体制は運営委員18人と現地指導員21名で進める旨報告あり。　又NHKの講座は今年は半年単位とする、中日の山ガール講座は1年の講座とし、前期・後期に分けるとのこと。　受講生は現在全部で81名となっている旨報告あり。
テキスト－200部印刷予定で費用が一部当たり2000円ほどかかるので、受講生から1000円徴収

の予定である旨報告あり。
⑧自然保護委員会（南川）：配布された調査表に基づき猿投の森の動物調査の結果報告を受ける。　又配布された議事録に基づきH25年度の活動予定の説明を受ける。
⑨ボランテア委員会（前田）：4月13～14日にSON支援登山を催行したが、東海支部から35名、SONから25名＋学生10名合計70名の支援者が参加してくださり、盛況であった旨報告あり。
⑩遭難対策委員会（野呂）：雪崩で遭難行方不明になっている名古屋山岳会のメンバーが未だ雪に埋まったままの状態になっているので、近くに行かれた方は現況を調査して欲しい旨依頼あり。
⑪写真展委員会（井上）：次回写真展は3月25日～30日市民ギャラリー栄にて開催することに決定した旨報告あり。
⑫総務委員会（佐野）：
◆同好会－7番目の同好会「スケッチクラブ」が発足した旨報告あり。
◆全国支部懇談会－今年は10月20日～21日静岡支部主催で開催する。東海支部から出来るだけ多くの人に参加して欲しい旨依頼あり。　締め切りは6月30日
◆小鳥烏水祭－4月13～14日開催された小島烏水祭に出席してきた旨報告あり。顕彰碑が高松市峰山公園に設置されたとのこと。

出席者：　小川、中世古、野呂、和田、柴田、山田、佐野、酒井、市川、中村、星、高橋、鈴木、南川、石田、前田、井上

総務委員会　毛利邦男　記

ルー ム 日 誌

3　月

１日（金）猿投の森づくり
４日（月）支部友委員会
５日（火）県岳連
６日（水）ＴＮＣＣ
７日（木）青年部／学生連盟
８日（金）山行打ち合わせ
１１日（月）登山教室委員会
１３日（水）登山教室編集会議
１４日（木）自然保護委員会
１５日（金）青年部
１８日（月）図書委員会／古道　塩の道
１９日（火）ボランティア委員会
２１日（木）山行委員会第一山行Ｇ／総務委員会
２２日（金）登山教室委員会
２６日（火）猿投の森づくりの会（企画・運営）
２７日（水）常務委員会
２９日（金）支部報発送作業

4　月

１日（月）支部友委員会
２日（火）県岳連
３日（水）ＴＮＣＣ
４日（木）写真展／青年部
５日（金）支部友山行
８日（月）登山教室委員会／猿投の森づくりの会
１０日（水）青年部
１１日（木）自然保護委員会
１２日（金）山行委員会第一山行Ｇ／総務委員会
１３日（土）ルーム清掃
１５日（月）図書委員会／古道塩の道研究会
１７日（水）ボランティア委員会／支部会計監査
１８日（木）学生連盟
１９日（金）支部報編集委員会
２２日（月）評議委員会／登山教室編集会議
２３日（火）猿投の森づくりの会（企画・運営）
２６日（金）亀の会運営会議

5　月

１日（水）ＴＮＣＣ
２日（木）青年部
５日（日）ＨＡＴ－Ｊ
７日（火）県岳連／支部友委員会
９日（水）自然保護委員会
１０日（金）古道塩の道／猿投の森づくりの会
１３日（月）登山教室委員会
１４日（火）青年部
１５日（水）山行委員会第一山行Ｇ／総務委員会
１７日（金）東海学生連盟
１８日（土）支部総会／猿投の森づくりの会総会
２０日（月）図書委員会
２１日（火）ボランティア委員会
２２日（水）常務委員会
２８日（火）猿投の森運営委員会

総務委員会　酒井　広　記

会員異動

入会

小出　育功(15250)　名古屋市西区枇杷島3-8-6　052-531-4349
小芝　晃　(15251)　名古屋市東区矢田1-4-23　052-711-0224
鈴木　隆　(15252)　東海市富木島町大清水1-46　052-604-9666
加藤　怜　(15253)　名古屋市西区枇杷島5-25-10　052-521-4472
林　悦子　(15254)　春日井市高森台1-17-26　0568-91-5672
榊間　清子(15255)　稲沢市稲島町洲原東4639-61　0587-21-6371
渡邉 春実(15256)　桑名市矢田磧222　0594-22-8431
米谷　陽作(15257)　半田市岩滑高山町3-123-1　0569-23-6967
安藤 暢子(15258)　名古屋市緑区滝ノ水2-1801　052-892-5806

服田 康宏(15259)　名古屋市瑞穂区南山町19-1-703　052-833-0253
千賀　穆子(15261)　四日市市東阿倉川67-43　059-332-8056
恒成 秀洋(15263)　名古屋市中村区猪之越町1-7-10　052-483-4889
毛利　仁　(15264)　名古屋市熱田区千代田町19-15　052-671-9318
第2日比野ハイツ6A
吉田 清恵(15265)　春日井市熊野町1022　0568-81-1436
川野 民子(15266)　名古屋市中村区十王町1-26　052-461-0797
神谷　清子(15268)　安城市尾崎町市場屋敷8　0566-98-0999
野村志保子(15269)　小牧市久保一色216-111　0568-77-8777
三嶋　正　(15272)　碧南市西浜町2-58　0566-41-0415
堀　保枝　(15276)　本巣郡北方町北方1462-2　058-324-0025
光崎 晋　(15277)　一宮市開明字飛山流19-2　0586-46-0821
内ケ島　進(15278)　名古屋市名東区梅森坂2-501-1　052-703-8267
梶浦 昌巳(15279)　春日井市朝宮町3-7-14　0568-33-7980
森 加奈子(15282)　名古屋市瑞穂区弥富町緑ケ岡18　052-831-0930
馬場 恵子(15284)　名古屋市西区中小田井4-243　052-502-9430
園田さえ子(15287)　名古屋市名東区亀の井　052-705-3698
1-8-102-510
三宅 恵子(15291)　四日市市松寺2-13-18　059-364-2881
齋藤 勇二(15296)　豊田市花園町一本木49-1　0565-53-0556
谷　育子(15300)　稲沢市高重東町53　0587-32-6709
西尾　紀子(15302)　名古屋市中区正木2-4-18　052-332-5763
山旺第6金山403
鈴木絵美子(15303)　名古屋市東区葵3-17-36　052-935-8359
横地　達夫(15309)　名古屋市中村区日ノ宮町1-119　052-481-1905
伊與田忠昭(15318)　豊川市長沢町小佐町37　0533-88-2537

退会

佐野　美恵子(14381)
小野　久光(12889)
寺西　伸子(13311)
鈴木　正典(13830)
坂部　公治(14336)

総務委員会　酒井　広　記

【山行委員会 第一山行グループからのお知らせ】

1．支部山行ホームページ
ホームページの安全運営のために会員番号とパスワードを入力しての山行案内閲覧と山行申込みになります。
①パスワードは既にお知らせ済み
紛失などでパスワードが不明の方は、支部山行ホームページの「問合せ･連絡」メニューから連絡を入れて下さい。なお、連絡先としてメールアドレスを記載して下さい。
②新会員のパスワード
郵送でお知らせしています。
③支部友会員から支部員になり会員番号が変わった時
ログイン時の会員番号が変わりますので、支部山行ホームページの「問合せ・連絡」メニューから会員番号の変更連絡を入れて下さい。

2．山行備品の貸出し
山行委員会では会員の皆様の山行にお使いいただくため、下記の山行備品を用意しています。支部ルームの山行備品棚に保管してありますので所定の手続きをしてご利用ください。なお、会員の皆様の共有備品ですので使用後はテントであれば乾かしてから返却するなど、皆様が気持ちよく使えるようご配慮ください。
なお、貸出しは有料でいずれも1セット500円です。利用料は山行備品棚の料金箱に納めて下さい。

【備品品目】
①トランシーバー（免許不要）②無線機（免許必要）③6人用テント･4人用テント、冬用テント④50mシングルロープ⑤コッフェルセット（大）

山行委員会　柴田清康

INFORMATION

【写真展実行委員会からのお知らせ】

○写真撮影山行のご案内

写真撮影山行では、登攀・歩行を少なくし、写真を撮影できる自由時間を多くした、山の景色や花などの撮影対象が多い場所への山行を計画しています。

① 車山高原、千島八島湿原
- 月日：7月22日(月)　日帰り
- 交通手段：自動車
- 撮影対象：高山植物（ニッコウキスゲ）
  湿原の植物

② 栂池高原（白馬山麓）
- 月日：9月1日～2日　1泊
- 交通手段：自動車 or 公共交通機関
- 宿泊：ロッジ、旅館
- 撮影対象：高山植物ほか

③ 裏剣、仙人池、黒部下の廊下
- 月日：9月下旬　3～4泊
- 交通手段：公共交通機関
- 宿泊：山小屋（剣沢小屋、仙人池、宇奈月温泉など）
  - 撮影対象：裏剣（仙人池、池の平）
  - 備考：縦走、若干体力が必要。

④ 駒ヶ岳、千畳敷
- 月日：10月　1～2泊
- 交通手段：自動車・ロープウエイ
- 宿泊：千畳敷ホテル
- 撮影対象：宝剣岳、高山植物

⑤ 白馬八方尾根
- 月日：11月　1泊
- 交通手段　自動車・ロープウエイ
- 宿泊：八方池山荘
- 撮影対象：新雪の白馬岳ほか

⑥ 上高地・大正池
- 月日：12月、1月 2～3泊
- 交通手段：自動車
- 宿泊：大正池ホテルか中の湯ホテル
- 撮影対象：雪の大正池、上高地、穂高連峰、霧氷

⑦ ダイヤモンド富士（竜ヶ岳）
- 月日：1月初め　1泊
- 交通手段：自動車
- 宿泊：旅館、民宿
- 撮影対象：ダイヤモンド富士、富士山

＊月日や行程などは、参加希望者との相談で決めます。

＊交通手段での自動車は、人数により自家用車かレンタカーのどちらかになります。

＊参加希望の方は、写真展実行委員までご連絡ください。

第14回写真展実行委員会　井上　寛之

【自然保護委員会からのお知らせ】

○霧ケ峰の自然生態系の観察山行のご案内

霧ヶ峰の現状の課題として、野生動物（シカ等）による植生被害でニッコウキスゲ始め草原の性植物の被食、草原の森林化と植生の変化、外来植物の繁殖、湿原の乾燥化および土砂の流入、オーバーユースによる草原の裸地化等で、霧ケ峰本来の自然（そうげん・湿原・樹叢）の希少な生態系が損なわれつつあると言われています。その現状を観察する事を企画いたしましたのでふるってご参加ください。

日　時　平成25年7月27日(土)～28日(日)
（1泊2日）

宿　泊　奥霧ケ峰八島高原荘」

費　用　15,000円　予定

定　員　16名

募集締め切り　　平成25年7月10日まで

申し込み先

自然保護委員会　副委員長　川合　鉛一

連絡先　〒444－0874　岡崎市竜美南3－3－1

電話・FAX　0564－51－8916

E－mail　Ka331s@ybb.ne.jp

＊申込み者には後日,内容等詳しい案内を送付いたします。

自然保護委員会　南川陸夫

編集後記

今号に投稿をお願いしていました篠崎純一氏が、5月8日奥穂高・白出沢での落石事故によりお亡くなりになりました。また、1月20日には、自然保護委員でHAT-J東海支部長を務められた黒田滋氏も鬼籍に入られました。心よりご冥福をお祈りいたします。

次号の支部報では追悼文を予定します。

星　一男

観光庁長官登録旅行業第490号/(社)日本旅行業協会正会員
アルパイン ツアーサービス
海外トレッキング／世界の山旅 専門旅行会社
まずは「ツアーカタログ」ご請求下さい
個人＆グループでのご利用お待ち申し上げます
名古屋営業所 TEL：052-581-3211
〒450-0002 名古屋市中村区名駅 3-23-6 第 2 千福ビル 8 階
FAX:052-561-8338 E-mail:nagoya@alpine-tour.com
ホームページ http://www.alpine-tour.com

ATLAS TREK
ハイキングから本格的な高峰登山までお気軽にお問い合わせ下さい。
観光庁長官登録旅行業第 1167 号 /（社）日本旅行業協会正会員
株式会社アトラストレック
名古屋サービスデスク TEL:052-788-2422
（東京本社転送電話）
【東京本社】〒180-0008 東京都新宿区三栄町 25 番地 三栄ハウス 202
TEL:03-3341-0030 FAX:03-3341-9200 E-Mail:info@atlastrek.co.jp
ホームページ http://www.atlastrek.co.jp/

SINCE 1975
mont·bell
ウエア・ギアに
遊び心も揃えて
お待ちしています！
アウトドア用品は、
機能的なアイテムが豊富に揃う
「モンベルストア」へ。

Outlet 名古屋店	愛知県名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパークロフト 6階
Outlet 名古屋みなと店	愛知県名古屋市港区品川町2-1-6 イオンモール名古屋みなと 3階
各務原店	岐阜県各務原市那加萱場町3-8 イオンモール各務原 2階
Outlet 長島店	三重県桑名市長島町浦安368 三井アウトレットパークジャズドリーム長島 2階
鈴鹿店	三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2 イオンモール鈴鹿 1階
新静岡店	静岡県静岡市葵区鷹匠1丁目1-1 新静岡セノバ 4階

Outlet アイコンのある店舗では、ファクトリーアウトレット商品も取り扱っています。
モンベル・カスタマー・サービス
0088-22-0031/TEL.06-6536-5740 www.montbell.jp
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

企 画・デザイン・印 刷
株式会社 ASAI 隆文社
株式会社 浅井隆文社
〒453-0801 名古屋市中村区太閤四丁目8番3号
TEL (052) 451-6656 FAX (052) 451-6657
E-mail : ta@asai-rbs.co.jp

♣♣♣♣♣♣♣ OMC ♣♣♣♣♣♣♣
住いのコンサルタント
㈲ 富 士 見 企 画
〒460 − 0014
名古屋市中区富士見町８番８号
♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣

公官庁の許認可申請・権利義務・事実証明の書類作成
西山行政書士事務所
〒460-0002
名古屋市中区丸の内3丁目1523番地大栄ビル204号室
TEL : 052-961-6506
FAX : 052-961-6507
URL : http://www.nygs-office.com/
facebook : http://www.facebook.com/nygs.office

ThumbsUp Free Climbing & Bouldering GYM
ENJOY! SMART CLIMBING
名古屋市中区富士見町8-8 B1F
OMCウォール株式会社
TEL. 052-332-2233